



1. カダラッシュサイトへ ITER 国際チーム員が集結

平成18年7月にCEAカダラッシュ研究センター内にITER（イーター）国際チームの仮事務所が完成して以来、ドイツのガルヒンク共同作業サイトおよび日本の那珂共同作業サイトで設計作業に従事していたITER国際チーム員が本格的にカダラッシュへの移動を開始した。平成18年末には、ガルヒンクサイトおよび那珂サイトにおける活動を終了し、翌1月半ばにすべての国際チーム員がカダラッシュへ集結した。なお、平成18年11月21日にITER協定が正式に署名され、ITER機構の暫定活動が開始されたが、ITER機構が正式に発足するまでは国際チームによる移行措置活動が継続される予定である。

カダラッシュサイトにおける各極から派遣されたITER国際チーム員は、平成19年2月末時点で約120名に達している。国際チーム員のほかにも、滞在研究者（Visiting Researcher）10数名が各極から派遣されている。また、CAD技術者、秘書などのスタッフ50数名が国際チーム業務を支援している。これらを含めると総数約190名規模となっている。日本からは2月末時点で長期派遣者14名、短期派遣者5名を派遣し、ITER建設開始に備えた技術的準備作業やITER機構の組織的準備作業を行っている。また、今後の人員増加に備えて、現在の仮事務所に隣接して第2仮事務所が建設中である。

2. ITER 建設サイトの整備作業が開始

平成19年1月末、CEAカダラッシュ研究センターに隣接するITER建設サイトにおいて樹木の伐採作業が開始された。作業は急ピッチで進められている。サイトの周囲に

フェンスを立て、大型重機による伐採した樹木の運び出しや砂利の運搬などが行われている。このため、一般の国際チーム員や来訪者はITER建設サイトに立ち入ることが禁止された。今年10月までに180haの広さのITER建設サイトの準備が完了する予定である。また、このサイト整備作業では、環境への影響を最小にするよう措置がとられ、ITER建設サイトの約半分は森として保存されることになっている（写真1、2参照）。

3. ITER 機構職員公募への応募状況

ITER機構の暫定活動の開始を受け、平成18年12月11日に、ITER機構職員の公募が開始され、52のポジションに対する募集がITERホームページ（<http://www.iter.org/a/jobs.htm>）に掲載された。日本原子力研究開発機構では、我が国政府からの要請を受け、日本における公募の窓口として、応募書類の提出方法や関連情報を当機構核融合研究開発部門のウェブサイトに掲載した。

日本国内での応募書類の受け付けは、平成18年12月25日より開始し、平成19年2月6日に予定どおり終了した。その結果、応募期間の短さにもかかわらず、25のポジションに対して29名の応募があった。応募書類はすべてカダラッシュのITER機構へ送付された。ITER機構では、各参加極からの応募書類の受付期限を2月20日とし、その後速やかに応募者の選考に入るとしている。日本原子力研究開発機構では、ITER機構と日本人応募者との間の連絡支援を引き続き行っていく予定である。

（日本原子力研究開発機構 核融合研究開発部門）



写真1 土地整備を開始したITER建設サイト(右下が新たに整地したエリア) (ITER機構提供)



写真2 ITER建設サイトの整備状況 (ITER機構提供)